

# 営農ウィークリーNEWS

JA京都中央 平成28年9月20日 No.311

## ライスセンターが本格稼働

JA京都中央のライスセンター2ヶ所（乙訓・大原野）が本格稼働しました。乙訓ライスセンターでは9月6日にモミの受け入れを開始。早生品種は平年に比べ3～4日早めの生育となっているほか天気予報で台風の影響による雨が予報され、刈り取りを早める農家の持ち込みがあり、すでに入荷は359トンと前年対比234%、平年対比155%と多くなっています。

今年から両ライスセンターには、色彩選別機が導入されました。

### 新しく導入された色彩選別機



利用農家には喜んでもらっています。農家ごとに出来具合やカメムシなどの被害状況が違うので玄米を見てはじめての設定をするのにけっこう神経を使います。

設定によりますが機械が選別する被害粒は平均すると1%以内。

と大原野事業センター畑センター長代理。

初期設定はカメムシ、モミ、異物、青未熟、乳白などを選別する感度設定をします。



袋詰機に詰められた米をロボットがはい積



色彩選別機で選別した被害粒やモミなど



被害粒など選別後の米

### 平成28年産米検査始動！！

9月15日、大原支店前で、平成28年産米の初検査（「契約外米（検査のみ）」）が実施されました。

当日は、農産物検査員3名が、今年度の産米の品質（コシヒカリ・キヌヒカリ）を確認しました。今年は、8月の高温による影響で白色未熟粒（背・腹白粒）、カメムシ類による斑点米粒被害が多く見られました。

高温障害、斑点米粒は等級を下げる原因となっております。晩生品種は現在登熟期を迎えており、今後の防除対策も必要となります。圃場をこまめに見回り、害虫を見つけた場合は適切な防除に努めましょう。

-TAC information (TAC logo)



作成者 道尾利之